

特集！

子ども食堂 ～ 地域みんなで子どもの未来を応援するために ～



子ども食堂は、「(困難を抱える家庭の) 子どものための食堂」と思われがちですが、それでは子どもたちが行きづらくなることは明白です。現在は「**子どもが一人でも来られる無料または低額の食堂**」と定義され、「地域食堂」「みんな食堂」という名称のところもあります。

子ども食堂は食事を提供するだけでなく、**子どもが子どもたちどうしで、あるいは地域のさまざまな大人たちと触れ合うことができる交流の場所**としても活用されるようになってきました。

【参考】 広がれ、こども食堂の輪！全国ツアー (<http://kodomoshokudo-tour.jp/>)



今回、情報収集・提供部会では、和泉市で子ども食堂を運営している方に、現状をお聞きして特集記事にすることにしました。訪問先は...

鶴山台北校区こども食堂

2017年1月スタート(現在3年目)

主催：鶴山台北校区社会福祉協議会
場所：鶴山台北老人集会所

参加費：子どもは無料、大人のみ100円
参加人数：毎回15～20名程度

— これまでの経緯を教えてください。

地域の課題を話し合う「協議の場」で**子どもの居場所づくり**を目的に民生・児童委員と校区社協ボランティアが協働でスタートしました。



はじめは手探りで、できることから始めました。毎月第3日曜日に開催していた高齢者のためのモーニングサンデーの後、場所もスタッフもそのまま、お昼から子ども食堂を開催することにしました。

— どのように運営されていますか？

スタッフは民生・児童委員です。材料や備品については、立ち上げ時に校区社協より少し補助金を出してもらい、その後、オリックス財団の**助成金**を獲得しました。一部地域の方の差し入れなども活用しています。

— 現在、そしてこれからの課題は？

スタッフ(ボランティア)が定着すれば、回数やメニューも増やすことができます。また、現在は老人集会所で月1回の開催ですが、**専用の場所**があれば、いつでも子どもが来られる場所として、宿題をしたり相談をしたり...
本当の意味での居場所づくりにつながっていくのでは、とそのため何ができるかを考えているところです。



まさこ まさひろ
真砂 裕充さん
(現在の代表)

厳しい表情で課題を語ってくれた真砂さんが最後に、『「またくるね」の笑顔に支えられて続けています』と照れくさそうに笑った顔がとても印象的でした。



和泉市内の子ども食堂



桃山学院大学の学生や地域みんなが宿題を教えてください。遊んでくれる。

子ども食堂 風の子

和泉市光明台 1-37-47 TEL 0725-55-5505
毎月第2土曜日 11:00～14:00
<https://www.facebook.com/tsubasakazek/>

みんなが楽しくほっとできる居場所
地域のホットステーション

てらこやハッピー

和泉市幸 2-8-22 西教寺 TEL 0725-41-0948
毎月第3木曜日 16:00～19:00 (小学生は18時)
<http://www.izumisaikyoji.jp/gyouji/index.html#happy>

■ 子ども食堂を始めたい方

和泉市社会福祉協議会(地域福祉係) TEL 0725-43-7513

■ ボランティアをしてみたい方

アイ・あいロビー TEL 0725-57-0294



昨年の台風を教訓に、今年度はシリーズとして「災害ボランティア」をとり上げることにしました。

私たちにできる災害ボランティア

大地震！大型台風！集中豪雨！みんなで守ろう！わたしたちのまち

研修交流会報告

7月31日（水）参加者 36名

（第一部）

昨年の台風 21 号の被害と対応（行政や社協がどのような対応をしたのか）を振り返り、その後、みなさんに昨年の 9/4 にタイムスリップしてもらい、強風の中、そして風がやんだ後、自分が何をしたのかを発表してもらいました。

グループワーク では、逆に何ができなかったのかを書き出してもらい、それに対して、なぜできなかったのか、どうしたらできたのかを話し合ってもらいました。



被害状況がわからなかった
市の放送が聞こえなかった

停電がこんなに続くなんて
他人のことを考える余裕がなかった

役割が決まっていたら
マニュアルがあったら
声かけを一人でする勇気がなかった

いずみメール加入の徹底
でもメール使えない人は？
声をかけるしかない

もっと近所の人と知り合いに
なっておけばよかった

もっと共助を

（コミュニケーション、組織作り）

（第二部）

パンの缶詰とコーヒーでティータイム
グループワークで話し
きれなかったことを
引き続きおしゃべり
してもらいました。



最後は、被災者であっても（被災者だから、住民だから）できる災害ボランティアについて、特に「応援ボランティアと被災者をつなぐ橋渡し」の意味を考えてもらいました。

目頃のお付き合い、助け合いが、いざというとき、みんなの命を守ります！



災害ボランティア講座のお知らせ

避難所や在宅避難で困っている人に情報を伝えることができるのは、地域のみなさんです。

応援ボランティアと被災者をつなぐ橋渡しをしていただくために「災害ボランティアセンター」がどんなところなのかを知ってください。

被災者役とボランティア役に分かれて、ボランティアの受付やニーズ（依頼）を聞き取る体験をします。

次回は、（1～2月予定）
災害ボランティアセンターのシミュレーション
詳細が決まり次第、メールやFAXでご連絡します。



災害ボランティア登録は随時受付中！ いつでも「アイ・あいロビー」まで。